

平成18年度
高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査
西野々遺跡
現地説明会資料



日時 記者発表 平成19年3月8日(木) 午前11時～12時
現地説明会 平成19年3月10日(土) 午後1時～2時
場所 南国市大埴字竹中の発掘現場

高知県教育委員会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

平成18年度 高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査にかかる 西野々遺跡(竹中地区)発掘調査概要

1. はじめに

西野々遺跡の発掘調査は、国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画している一般国道55号高知南国道路工事により影響を受ける部分について、事前の発掘調査を行った上で出土遺物等の整理作業を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的としたものです。

本年度は、平成16年度に調査を行ったI区の東側(VI区・VII区・VIII区)、遺跡の東半部の調査を行っています。

2. 西野々遺跡の概要

西野々遺跡は山際の北側、東西に長く広がる遺跡です。従来「茶田遺跡」として周知されてきたものの、平成15年度に行われた試掘調査までは、具体的な遺構については不明でした。試掘調査の結果、工事区域のほぼ全域で弥生時代・古代・中世を中心とした遺構・遺物を確認したことから、平成16年度から本発掘調査が行われることとなりました。今年度は三年目に当たり、遺跡の東半部(竹中地区)の調査が行われました。

遺跡名については、遺跡の範囲が茶田と呼ばれる小字部分以外にも広がることや、地元住民の方からの要望もあり「西野々」という字名を使用し、茶田遺跡から西野々遺跡に変更しました。

3. 調査対象地

南国市大埴字竹中

4. 調査体制

調査委託者 国土交通省四国地方整備局

調査主体 高知県教育委員会

調査実施機関 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

5. 調査期間

平成18年5月8日～平成19年3月1日

6. 調査面積

(1) 全体

調査対象面積 約18,470㎡

調査総面積 約12,070㎡

(2) VI区

調査対象面積 約7,100㎡

調査総面積 約6,430㎡

(3) VII区

調査対象面積 約6,000㎡

調査総面積 約4,630㎡

(4) VIII区

調査対象面積 約2,110㎡

調査総面積 約1,010㎡

7. 調査結果

(1) 検出遺構

弥生時代： 竪穴住居跡, 掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, ピット, 性格不明遺構など

古 代： 掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, ピット, 性格不明遺構など

中 世： 溝跡, ピットなど

近世以降： 土坑, 溝跡, ピット, 性格不明遺構など

(2) 出土遺物

総点数 約110,600点

弥生土器, ミニチュア土器, 土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 黒色土器, 瓦器, 青磁, 白磁, 近世陶磁器, 土製紡錘車, 土錘, 石鏃, 石庖丁, 石斧, 叩石, 砥石など

8. 調査成果

(1) 弥生時代中期の集落跡を確認

今年度調査区域の西半部(VI区～VII区西)を中心に、竪穴住居跡46軒、掘立柱建物跡約18棟、土坑、溝跡等を検出しました。これらの遺構は、出土遺物から弥生時代中期のものと考えられます。住居跡の切り合いは2軒以下と少なく、時期も中期に限定されるようです。竪穴住居跡は直径約6m以下の小～中型のもので構成されています。住居の床面からは弥生土器等の他、サヌカイトの剥片なども多く出土しています。また、掘立柱建物跡は、棟方向と並行して溝状土坑を伴う例が6棟確認されました。これら遺構や遺物の様相は西野々遺跡から約1.5km離れた田村遺跡群と類似しており、集落間での頻繁な行き来があったものと考えられます。さらに、西野々遺跡から約500m東に所在する関町田遺跡との関連も想定されます。

(2) 郷家に関連するとみられる建物跡約70棟を検出

平成16年度の調査から郷家に関連する可能性が推測されていましたが、今回多数の建物跡が確認され、その蓋然性が高いものとなりました。これらの建物跡は、1間×1間のものから3間×5間のものでみられ、何度か建替が行われています。特に、VII区東で確認された3間×5間の東西棟建物の柱穴は、一辺約1.2m、深さ0.6～0.8mを測る非常に大型のもので、郷家の中心施設であった可能性が考えられます。また、掘立柱建物群の東には溝跡が確認されており、これより東には建物跡は認められていないことからこの溝跡が境をなしていたものと考えられます。

これまでの調査によって90棟余りの建物跡が確認され、その範囲は東西約650mに互っており、

本年度の調査区がその中心部分であったと思われます。

(3) 中世の溝跡, 畠跡を確認

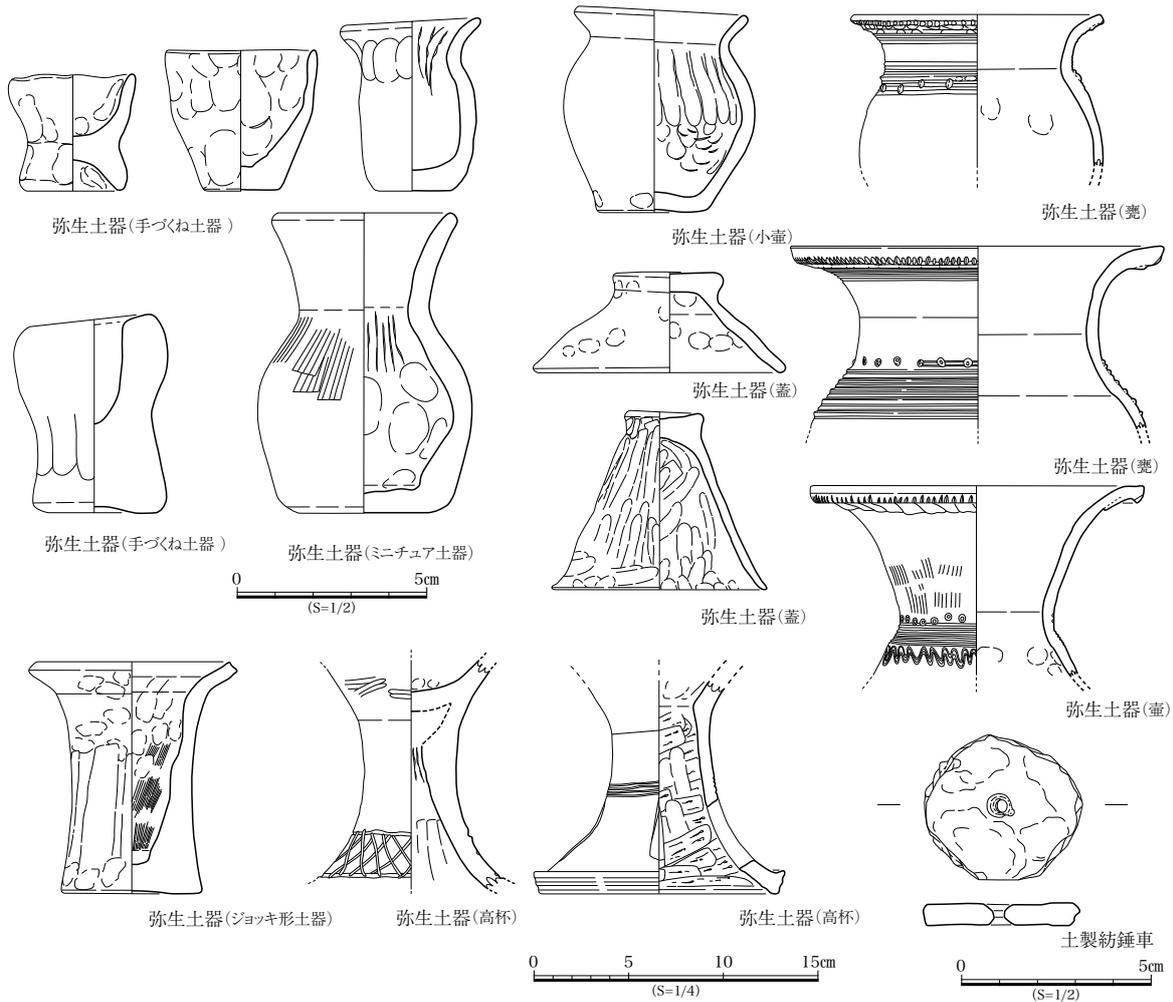
Ⅵ区東からⅦ区西にかけて, コの字形に配される溝跡を確認しました。これは屋敷地等を区画する溝であった可能性があります。また, 遺跡の東端部に当たるⅧ区西では, 中世の畠跡とみられる畝状遺構を確認しました。

9. まとめ

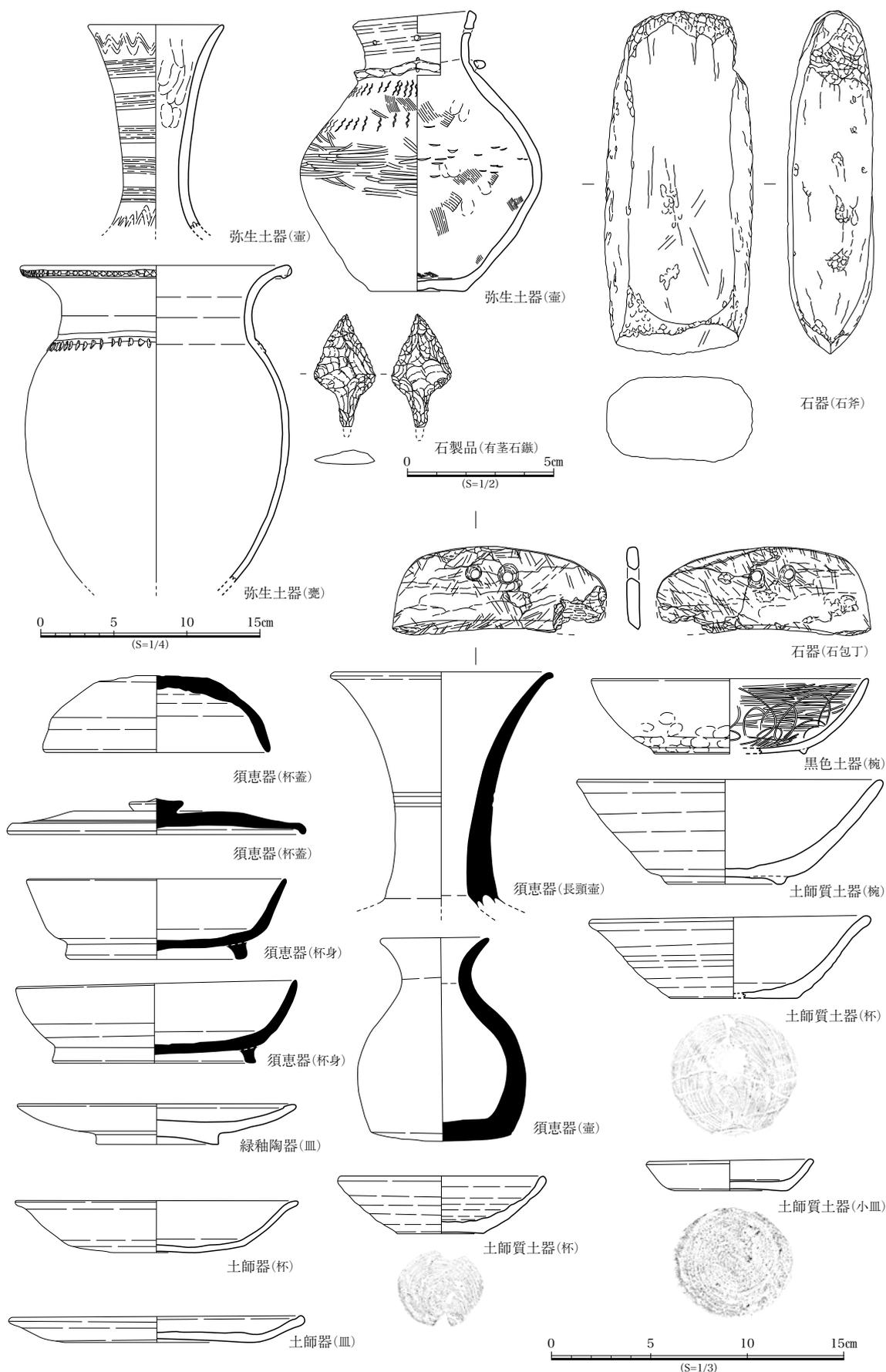
西野々遺跡の発掘調査は, 今年度で三年目となります。これまでの調査によって, 西野々遺跡の様相は少しずつですが明らかになってきています。

特に, 今年度の調査では, これまで不明であった弥生時代の集落が確認できたこと, そして古代の郷家関連施設の中心とみられる建物跡を検出したことは, 大きな成果であったと言えます。発掘調査は来年度に残りの調査を行い, 西野々遺跡の調査は終了することとなります。今後は出土遺物の整理作業により, 更なる遺跡の解明が期待されます。

最後に, 調査にあたり多大なご理解とご協力を頂いた土佐国道事務所, 地元並びに関係者の皆様には心からお礼を申し上げますとともに, 今後ともご協力をお願いいたします。



出土遺物実測図1



出土遺物実測図2



VI-W区遺構完掘状態(東より)



VI-W区遺構完掘状態(上空より)



VI-W区弥生土器出土状態



VI-E区土師質土器出土状態



VII-W区遺構完掘状態(東より)



VII-E区古代の掘立柱建物跡(東より)



VIII-W区遺構完掘状態(北より)



VIII-W区弥生柵列跡(東より)